

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成30年7月19日 (2018.7.19)

【公開番号】特開2018-52985(P2018-52985A)

【公開日】平成30年4月5日 (2018.4.5)

【年通号数】公開・登録公報2018-013

【出願番号】特願2018-1740(P2018-1740)

【国際特許分類】

C 0 7 D 491/052 (2006.01)

A 6 1 K 31/4188 (2006.01)

A 6 1 P 31/14 (2006.01)

C 0 7 B 51/00 (2006.01)

【F I】

C 0 7 D 491/052 C S P

A 6 1 K 31/4188

A 6 1 P 31/14

C 0 7 B 51/00 F

【誤訳訂正書】

【提出日】平成30年6月8日 (2018.6.8)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

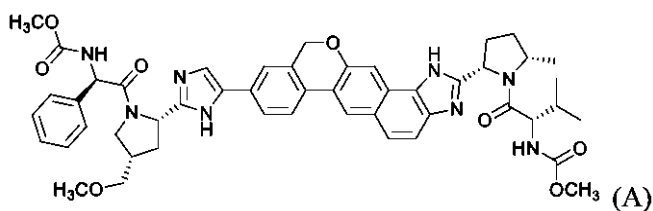
【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

式 (A) の化合物

【化 3 0 1】



の塩を調製する方法であって、

式 (A) の化合物を、リン酸、塩酸、臭化水素酸、および L - 酒石酸から選択される酸と、式 (A) の化合物の塩を得るのに十分な反応条件下で、接触させることを含む、方法。

【請求項 2】

前記反応条件が、メタノール、エタノール、水、およびイソプロパノールから選択される溶媒中で前記反応を行うことを含む、請求項 1 に記載の方法。

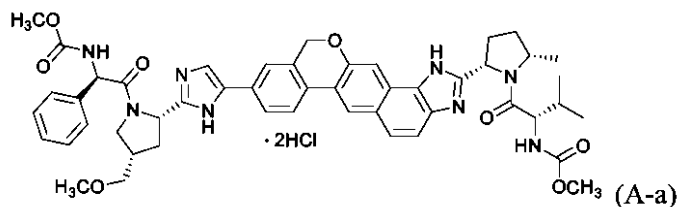
【請求項 3】

前記反応条件が、5 ～ 60 の範囲の温度で前記接触させるステップを行うことを含む、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 4】

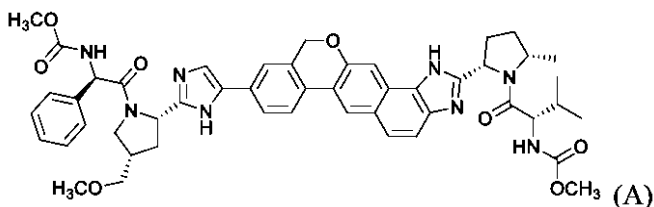
式 (A - a) の化合物

## 【化 3 0 2】



を調製する方法であって、  
式 ( A ) の化合物

## 【化 3 0 3】



を、塩酸と、式 ( A - a ) の化合物を得るのに十分な反応条件下で、接触させることを含む、方法。

## 【請求項 5】

前記反応条件が、エタノール中で前記反応を行うことを含む、請求項 4 に記載の方法。

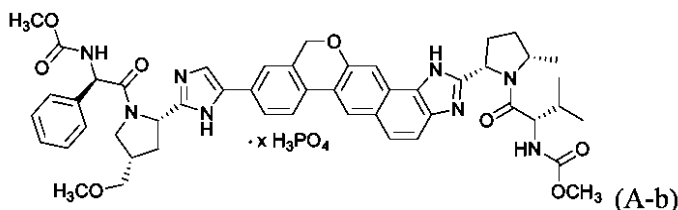
## 【請求項 6】

前記反応条件が、45 の温度で前記接触させるステップを行うことを含む、請求項 4 に記載の方法。

## 【請求項 7】

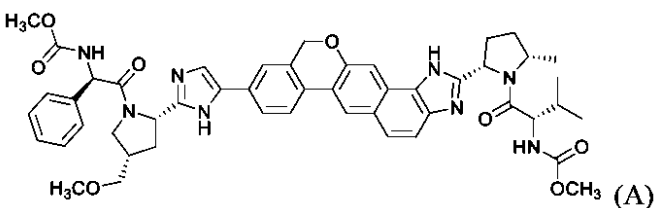
式 ( A - b ) の化合物

## 【化 3 0 4】



を調製する方法であって、  
式 ( A ) の化合物

## 【化 3 0 5】



を、リン酸と、式 ( A - b ) の化合物を得るのに十分な反応条件下で、接触させることを含む、方法。

## 【請求項 8】

前記反応条件が、エタノール中で前記反応を行うことを含む、請求項 7 に記載の方法。

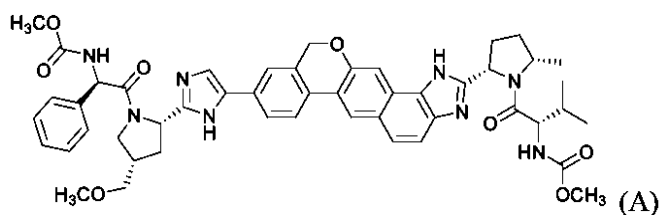
## 【請求項 9】

前記反応条件が、5 ~ 60 の範囲の温度で前記接触させるステップを行うことを含む、請求項7に記載の方法。

【請求項10】

式(A)の化合物

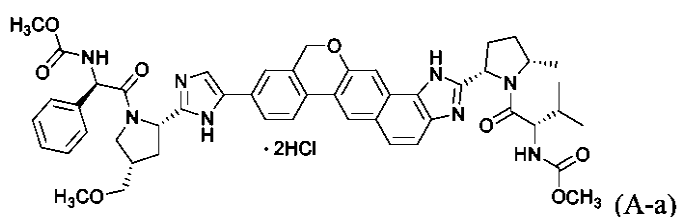
【化306】



を調製する方法であって、

式(A-a)の化合物

【化307】



を、式(A)の化合物を得るのに十分な反応条件下で、接触させることを含む、方法。

【請求項11】

前記反応条件が、10%重炭酸カリウムを含む、請求項10に記載の方法。

【請求項12】

前記反応条件が、酢酸エチル中で前記反応を行うことを含む、請求項10に記載の方法

。

【請求項13】

前記反応条件が、

(a) 分離しそして水で有機相を洗浄するステップと、

(b) 該有機相を濃縮し、そして得られた濃縮物を水に添加するステップと、

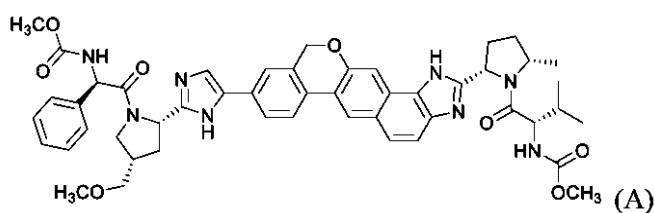
(c) 濾過によって、式(A)の化合物を単離するステップと

をさらに含む、請求項12に記載の方法。

【請求項14】

式(A)の化合物

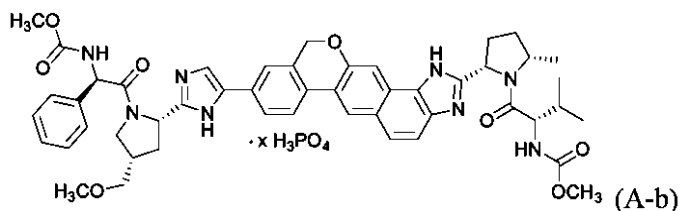
【化308】



を調製する方法であって、

式(A-b)の化合物

## 【化 3 0 9】



を、塩基と、式 ( A ) の化合物を得るのに十分な反応条件下で、接触させることを含む、方法。

## 【請求項 1 5】

前記反応条件が、水酸化アンモニウム、二塩基性リン酸カリウム、または重炭酸カリウムを含む、請求項 1 4 に記載の方法。

## 【請求項 1 6】

前記反応条件が、エタノール、水、または酢酸エチル中で前記反応を行うことを含む、請求項 1 4 に記載の方法。

## 【請求項 1 7】

前記反応条件が、1 5 ～ 2 5 の範囲の温度で前記接触させるステップを行うことを含む、請求項 1 4 に記載の方法。

## 【請求項 1 8】

前記反応条件が、

( a ) 分離しそして水で有機相を洗浄するステップと、

( b ) 該有機相を濃縮し、残留物をエタノール中に取り入れ、そして得られた混合物を水に添加するステップと、

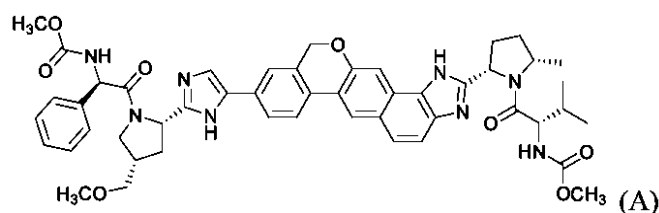
( c ) 濾過によって、式 ( A ) の化合物を単離するステップと

をさらに含む、請求項 1 4 に記載の方法。

## 【請求項 1 9】

請求項 1 ～ 3 または 1 0 ～ 1 8 のいずれか一項に記載の方法によって得られる式 ( A ) の化合物。

## 【化 3 1 0】



## 【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 4 9 0

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

## 【0 4 9 0】

反応容器に、化合物 ( A - b ) ( 3 . 0 g )、続いて E t O A c ( 1 5 m L ) および 1 0 % K H C O <sub>3</sub> ( 1 5 m L ) を投入し、かき混ぜを開始した。約 5 時間後、相を分離し、有機相を水 ( 1 5 m L ) で洗浄し、次にロータリーエバポレーションによって真空下で濃縮した。残留物を E t O H ( 4 . 5 m L ) 中に取り入れ、次に水 ( 3 0 m L ) に添加してスラリーを生成した。約 1 5 分後、固体を濾過によって単離し、水 ( 3 × 3 m L ) で洗い込んだ。固体を、約 5 0 ～ 6 0 の真空オーブンで約 1 5 時間乾燥させて、化合物 ( A ) を生成した。